

課題名：高能力繁殖雌牛供給事業

担当部署名：畜産センター肉用牛研究所飼養技術研究室

予算(期間)：県単（2024年度～）

1. 目的

新たな常陸牛のトップブランドを目指す「常陸牛煌」の生産基盤強化・生産拡大に向けた取組みのひとつとして、ブランド基準のひとつであるオレイン酸能力が高い繁殖雌牛を選抜し、育成、受胎させた後、畜産農家に供給することで、県内の高能力繁殖雌牛の増頭を図る。併せて、繁殖不良となった雌牛を放牧地にてリハビリし、繁殖機能の回復を図る。

2. 方法

(1) 高能力繁殖雌牛の飼養管理および供給体制の構築

高能力繁殖雌牛（育成）の飼養・繁殖管理、譲渡にあたっての基準の作成、業務移行に伴う飼養管理体制の整備等を実施する。

(2) 畜産農家への需要等調査

ア 調査内容

「常陸牛煌生産拡大への取組に関するアンケート調査票」により、以下の項目について調査を行う。

- ・「常陸牛煌」への関心や、ゲノミック評価成績の活用状況、希望する交配精液など繁殖管理で重要視していること
- ・オレイン酸の能力に優れた雌牛導入への関心や、供給される繁殖雌牛に求める能力

イ 調査対象農家

繁殖農家、一貫経営農家、県事業等に取り組む農家、常陸牛煌の生産実績のある農家等

(3) 放牧を活用した繁殖雌牛のリハビリ等

繁殖不良となった雌牛を放牧地にてリハビリし、繁殖機能の回復を図る。

3. 結果の概要及び要約

(1) 高能力繁殖雌牛の飼養管理および供給体制の構築

今年度は業務移行に伴う準備段階として、高能力繁殖雌牛（育成）他の受け入れのための牛舎改修、牛伝染性リンパ腫ウイルス（BLV）の感染状況による飼養区画の区分けや作業動線の見直し、作業従事者の衛生対策等の飼養管理体制の見直しを行い、供給体制の構築を進めた。

また、畜産農家への需要等調査の結果を踏まえ、関係機関と協議のうえ、高能力繁殖雌牛供給にかかる譲渡基準の作成を行った。併せて、外部導入牛を6月、10月、1月の3回、計15頭の着地地点として、一時的に繋留し、県北家畜保健衛生所等と連携のうえBLV（牛伝染性リンパ腫）の検査を行った。BLV陰性牛については、清浄化農場である畜産センターへ管理替えを行うなど中継拠点として役割を担った。

(2) 畜産農家への需要等調査結果

調査戸数 33戸（一貫：14戸／繁殖農家：17戸／乳肉複合：2戸）

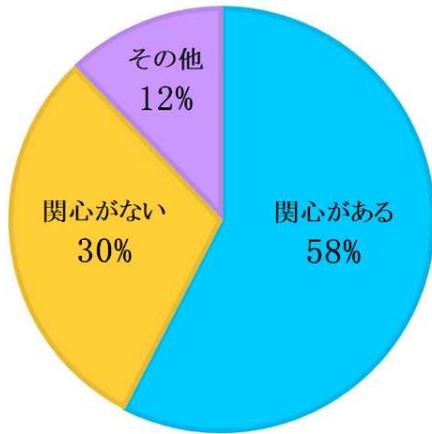


図1 「常陸牛」への関心について

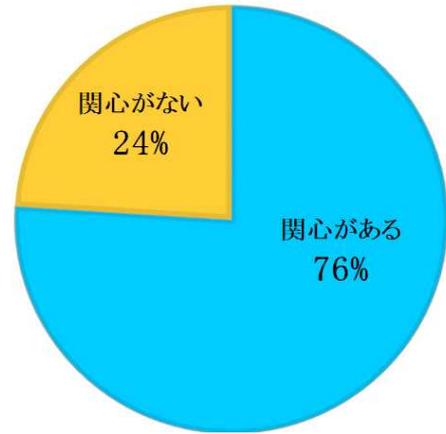


図2 オレイン酸の能力に優れた雌牛導入への関心について

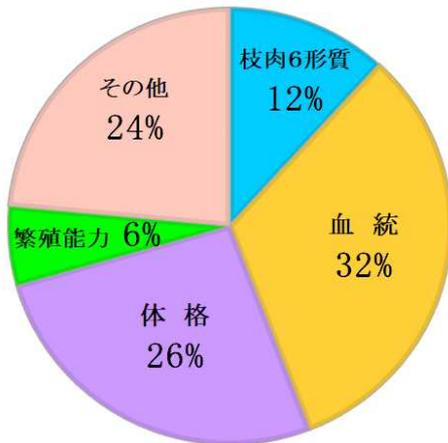


図3 供給される繁殖雌牛に求める能力

(3) 放牧を活用した繁殖雌牛のリハビリ等

繁殖不良となった雌牛7頭を放牧地にてリハビリし、繁殖機能の回復を図るとともに、ホルモン処理および人工授精を行った。